特集 秋田の動物園60年

大森山動物園のあゆみ❷

# 大森山の時代 1973〉〉〉2009

## 1 大森山動物園オープン

秋田市大森山動物園は、昭和48年9月1日に開園しました。開園記念式典では、こどもたちが当時の高田市長や来賓と一緒にテープカットしてお祝いしました。開園当時の面積は約80,000㎡で、飼育動物数は千秋公園にあった児童動物園時代に比べて24種65点増加し、93種280点でスタートしました。

開園当時の人気動物は、児童動物園から引き継いだアシカのチビや若いライオンのレオとチャコ、新しく加わった2頭の幼いチンパンジーなどでした。

児童動物園時代に、幼くして仙台市から贈られたライオンのレオとチャコは、大森山に移って成獣となり、2頭の間には通算で41頭の子供が生まれました。人工哺育で育てられたチャコは子育てを知らず、子供も全て飼育係が人工哺育して育てました。

昭和50年にはマレーグマを導入し、51年にベンガルヤマネコ、52年にグラントシマウマ、53年にアカカンガルー、54年にダチョウ、シロエリオオヅルと、年ごとに動物を加えました。昭和55年には、サンパウロ市のブラジル秋田県人会から南米原産のパカを寄贈して頂きました。3年後には繁殖にも成功し、子供のかわいい姿が人気を集めました。ブラジル秋田県人会からは、その後もコモンマーモセットとフサオマキザルを寄贈して頂いています。

## 2 サル山建設とフタコブラクダの来園

昭和56年にはサル山を建築して展示面の充実を図りました。サルは、京都で有害駆除により捕獲された野生ニホンザル33頭で飼育を開始しましたが、現在は、全てサル山の中で生まれた子孫66頭に代替わりしています。今年は「秋田のサル山、杉の山」をテーマに、サル山の中に秋田杉の太丸太14本を使った木組みを設置し、樹上性のサルの動きをご覧頂けるよう工夫しました。横木の先に4基設置したお立ち台には、親子ザルなどが乗り、お客様にアピールする姿などが見受けられています。

昭和57年には、中国の蘭州市から、友好の証にフタコブラクダ2頭が寄贈されました。オスの蘭泉(らんせん)は、蘭州市の泉が友好の波として伝わるように、メスの田田(てんてん)は、秋田の「田」の字を連ね、両市の関係がいつまでも甘く良い関係であるようにとの願いをこめて、当時の蘭州市副市長が命名しました。2頭の間には通算で12頭の子供が生まれ、各地の動物園で活躍しています。

## 3 ゾウ、キリンの登場

秋田でゾウやキリンが見たいとの要望が、児童動物園時代から多数寄せられていました。昭和63年、市制百周年記念事業として、ゾウとキリン導入の方向に大きく舵が切られましたが、実際の導入までには、用地造成や建設工事、職員の長期研修など、多くの課題がありました。

ゾウは、子供のアフリカゾウが動物舎完成前に搬入されることになり、急きょ、フタコブラクダの部屋を越冬用舎房に改造して対応しました。平成2年9月30日、深夜に到着した2頭の子ゾウは、共に体高約130cm、体重約400kgと思いの外小振りで、現在のだいすけ(オス推定5㌧)と花子(メス推定3.5㌧)の大きさからは想像できないほどでした。2頭が新動物舎へ移動した時は、鉄柵の幅が広すぎて、脱出防止のために角材を追加してしのぎました。

キリンは、東京都多摩動物公園からアミメキリンのオス1頭、メス2頭をお借りしました。平成3年3月、冷え込む峠を震えながら越えてきた3頭のキリンは、公開時には元気を回復し、公募でオスが「のびた」、メスが「ナナ」と「モモ」と名付けられました。

平成3年4月の開園では、ゾウ、キリン舎前のあふれる人垣に、市民の夢を実現できた喜びを職員一同感じました。

## 4 開園20周年とふれあいランド開設

平成5年の開園20周年にあわせ、夏休みに動物の夜の生態をご覧頂こうと、「夜の動物園」を開始しました。現在は、里帰り客などで日中よりも賑わい、夏の風物詩として定着しています。平成9年、「出会い、ふれあい、くつろぎ」をコンセプトに、「見るだけ」から「体験できる」動物園の具現化を目指して「ふれあいランド」を開設しました。水中を飛ぶように泳ぐペンギンに心躍らせ、おっとりとしたカピバラや愛らしいレッサーパンダに心和ませた後、ウサギ、モルモットとのふれあいを楽しむコースは、現在も幼い子供たちから年配の方まで、変わらぬ人気を呼んでいます。

## 5 開園30周年と王者の森

平成10年代に入り、ライオンやトラ、チンパンジーを飼育展示していた総合動物舎が老朽化してきたため、建て替えることになります。平成13年に「チンパンジーの森」を建設してチンパンジーを移動し、平成15年には大型猛獣のための「王者の森」を建設し、開園30周年とあわせて完成を祝いました。鉄とコンクリートでできた展示場から、たくさんの緑と土に囲まれた展示場になり、またクリアな視界のガラス展示部分も作られ、お客様にも大変好評です。

## 6 まんまタイムと餌やり体験

それまで、「動物のお食事拝見」として単発で実施していた食事風景などの解説は、平成17年、「まんまタイム」として新たにスタートしました。同時に、サル山などではお客様が直接餌をやることができる「餌やり体験」(有料)も始めました。

## 7 希少種アムールトラの繁殖

平成19年、多摩動物公園からアムールトラのメス「アシリ」がやってきて、すでに飼育していたオスの「ウィッキー」とペアとなり、平成20年3月6日、待望の2頭のメスの子が生まれました。2頭の子の愛称は、公募で「アルル」と「ミルル」と決まり、5月末に展示場デビューしました。その後もすくすくと育ち、アルルは平成21年6月に広島市安佐動物公園に嫁入りしました。現在、ミルルも独り立ちの訓練に入り、ウィッキーとアシリの次の繁殖作戦が始まりました。

## 8 アソヴェの森

平成21年、動物を間近に見ながら楽しめ、園内の高低差を緩和できる機能を併せ持つ大型遊具として、財団法人日本宝くじ協会の寄贈による「アソヴェの森」が完成しました。

昭和48年9月、テープカットで開園を祝いました

幼いチンパンジーも人気でした

開園を待ちかねた人々で賑わいました

昭和56年、サル山オープン！

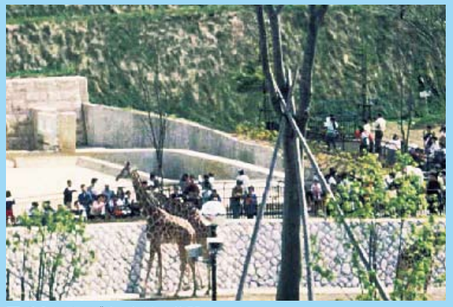
アシカのジャンプが人気でした

昭和58年ブラジルから来たパカ繁殖

昭和57年、フタコブラクダ来園

平成5年、夜の動物園開始

平成14年、チンパンジーの森完成


平成3年春、ゾウ・キリン公開

平成15年、王者の森完成。
クリアな視界が好評のガラス展示部分

平成17年、まんまタイム開始

平成20年、アムールトラ繁殖

平成21年、アソヴェの森完成